

老化は治る!?!

銀座アイグランドクリニック・乾雅人院長に聞く



②

そもそも「老化」とは、いったいどのような現象なのだろうか。銀座アイグランドクリニックの乾雅人院長は、「『加齢』≠『老化』だった状況が、『加齢』≠『老化』の文脈に変わったことを、まず意識してください」と言う。

加齢とは区別



WS patient age 15 yrs



WS patient age 48 yrs

遺伝子異常によって加速する

乾雅人(いぬい・まさと) 東京大学医学部卒。同大学院で移植肺慢性期管理を研究。2016年に医療コンサルティンク会社を設立。20年「自然美の追求」に特化した美容皮膚科、銀座アイグランドクリニックを開業。「細胞の活性化」を切り口に幹細胞治療や老化薬を検証する。著書に『21世紀の新常識「老化は治る」』(健康出版)。

加齢と老化の区別とはどういうことなのだろうか。「加齢とは、一定方向に一定速度で進むものです。対応する暦年齢は、生年月日と現在の日付だけで決まります。英語表現も『エイジング (aging)』であり、老化に相当する『セネセンス (senescence)』とは、そもそも違う概念です。みなさん

は日常生活の中で、肌年齢や血管年齢、筋肉、髪質、体内組成など、努力によって若返った実感することがあるかと思えます。この生物学的年齢ともいうべき

WHO作成の国際疾病分類に「治療対象」の概念

「早期老化症」を例にあげ解説する。「ウェルナー症候群」という、早期老化症という難病が知られています。原因はウェルナー遺伝子の異常であり、この遺伝子異常によって、老化が加速する病気として知られています。不妊治療の際に耳にするタウシ症候群も、早期老化症の一種です。従来は、原因が不明で、老化が加速した結果、症状として呈する老年症候群(白内障や高血圧、糖尿病など)に対する対症療法ばかりが行われてきました。

「しかしながら、根本原因が遺伝子の異常であるならば、その遺伝子異常を治療することで、老化そのものを治療することが可能と考えられるのは自然なことです。ゲノム解析というテクノロジーが発達したこと

【取材・太田サトル】
「あすは「細胞の寿命に関する」というテーマについて」